

## 成果の説明書

(氏名) 片岡美喜	(学部) 地域政策学部
<b>1 重要事項</b>	
<b>1. 研究成果</b>	
<b>&lt;学術論文&gt;</b>	
・高津英俊、片岡美喜、鶴川洋樹「酪農の第三者継承における支援組織の役割と課題：一都府県地域を事例として」『農林業問題研究』地域農林経済学会、56(3), 93-100, 2020年	
<b>&lt;図書&gt;</b>	
・片岡美喜「農業経済学の研究動向」『年報 村落社会研究 56 人の移動からみた農山漁村』日本村落研究学会、農山漁村文化協会発行、2020年	
<b>&lt;学外研究費&gt;</b>	
・科学研究費基盤 (C) 「純土地持ち非農家」多数派化の下での農地所有者行動と地域農業資源管理に関する研究 (2018年～2021年度、研究代表者：京都大学伊庭治彦)	
<b>&lt;受賞&gt;</b>	
・2019年度乳の社会文化学術研究 優秀賞「研究課題名：日本型酪農経営継承システムの開発に向けた実態分析と課題」、乳の社会文化ネットワーク、2020年8月28日	
<b>2. 教育活動</b>	
<b>&lt;担当講義について&gt;</b>	
・地産地消・スローフード論	
・エコツーリズム論	
・観光資源論	
・基礎演習、演習 I、演習 II	
・エコツーリズム・グリーンツーリズム特論 (大学院)	
今年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、オンライン講義となった。講義は事前に収録を行ったうえでのオンデマンド講義を実施した。これらの講義を進める際、学生への学習効果の向上を果たすとともに、なるべく利便性が高い実施方法とするため、講義用 Microsoft Teams 内でのきめ細やかな告知や双方向での質問受付などの対応、学生に身近である YouTube を活用した限定配信による講義動画の配信を行った。	
また、講義のオンライン化に伴い、対面以上に伝えられることを目指してすべての講義資料および講義用スライドの刷新を行い、講義内容の一層の充実を図った。受講生間の顔がみられず、意見を聞くことができにくいため、講義内での学生アンケートや、学生の意見を匿名化したうえで学生相互にみられるように工夫を行った。こうした取り組みについて受講生からは「他の人がどのような意見を持っているか知ることができてよかった」「普段一人でオンライン講義を受けているが、こうして他の受講生の考えが知ることができると皆と講義に出ている感じになった」など好評を得た。	
<b>&lt;ゼミ活動について&gt;</b>	
本年度はゼミでの調査研究に関しても新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、これまで本ゼミで実施してきたゼミ合宿などは中止にせざるを得なかった。しかしながら、少人数でのグループ研究によって、各学年に応じた研究活動を実施した。	
2年生は基礎演習の時間を通じて調査に関する基礎学習を行ったうえで、全国エコツーリズム学生シンポジウムでの研究発表を目的に、2つのグループに分けて調査研究を行った。第1グループは、新型コロナウイルスの影響で混雑や人との接触を避けながら旅行ができる手段としての車中泊とその拠点として道の駅に注目し、「道の駅における RV パークの現状と課題」を研究した。RV パークを設置している道の駅におお	

た、道の駅六合を対象に現地調査およびアンケート調査を実施した。第2グループはオンラインツアーの現状と可能性に着目し、北海道とバリ島のオンラインエコツアーに参加して、事業者へのインタビュー調査からその現状と展望をお伺いした。これらの成果は、オンライン大会で実施された同シンポジウムにて報告した。

3年生は、大学生観光まちづくりコンテスト2020への応募を目指して、2つの研究課題に取り組んだ。1つ目の研究課題は「富岡製糸場を核にした女子旅の可能性」ということで、富岡製糸場と関連遺産群への現地調査を行い、面的な観光回遊の可能性に関する案を提示した。2つ目の研究課題は「コロナ下における草津温泉の可能性」として「温泉大学」と銘打った草津における学生向けワーケーションプランを提案した。この草津に関するプランは、同コンテストから佳作を頂くことができた。

先述の活動のほか、例年参加している本学、和歌山大学、広島大学、広島修道大学、琉球大学の近い研究領域のゼミナールで毎年合同の現地調査や研究交流を行う「五大学合同ゼミ」は琉球大学が幹事校であり現地で実施する予定であったが、今年度はオンラインで実施した。学生・大学院生の研究発表に加えて、沖縄において農家民泊を行っている地域の方々からの現状についてお伺いした。

### 3. 学内業務

- ・教務委員会委員
- ・新カリキュラムワーキンググループ・メンバー
- ・キャリア支援会議委員
- ・ハラスメント防止委員
- ・教職課程運営委員会委員
- ・昇任人事に係る業績審査 委員長

### 4. 社会活動

#### (1) 学会活動、その他地域活動

- ・個別報告座長,第1会場担当,令和元年度日本農業経済学会大会,2021年3月28日(茨城大学オンライン実施)
- ・地域農林経済学会 第23期理事
- ・研究学会誌の論文査読(3本)

#### (2) 各種委員会

- ・内閣府総合特別区域の専門家評価に係る委員(まちづくり分野)
- ・関東農政局国営土地改良事業計画に係る専門技術者(国営鬼怒川南部土地改良事業)
- ・中央酪農会議 令和2年酪農全国基礎調査 調査検討委員会委員
- ・群馬県情報公開審議会委員
- ・群馬県環境審議会委員
- ・群馬県自然環境保全審議会 自然環境部会
- ・群馬県国土利用計画審議会
- ・群馬県世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」来訪者調査分析及び活用案作成業務ワーキンググループ会議 専門家委員
- ・地産地消コーディネーター(一般社団法人都市農山漁村交流活性化機構)
- ・軽井沢町 22世紀風土フォーラムまちづくり活動支援部会委員

### 2 その他の事項

### 3 次年度以降の計画・抱負

次年度以降の抱負として、現地調査を増やし、さらに理論面、実証面を充実させた研究報告、論文執筆を行うことである。